

科目名	真言密教講読演習G			学期	後期	単位数	2	担当者	坂口太郎
副題	「感身学正記を読む」								
ナンバリング	M3-12-297	授業方法	講義	実務経験の有無			無	関連DP	1,2

授業の目的と概要

本演習では、鎌倉後期において戒律復興と密教興隆に尽力した、西大寺叡尊の自伝『感身学正記』下巻を読解する。受講者は、割り当てられた担当箇所について、関係史料・論文を調査し、資料を作成することで研究能力を練磨する。さらに、演習中における質疑・討論を通して、同時期の叡尊の宗教活動のみならず、叡尊と公武両政権との関係について理解する。なお、授業計画に示す内容は、進度その他の状況を勘案して変更される場合がある。したがって、シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、予めお断りしておく。

授業の到達目標

鎌倉後期における叡尊の宗教活動を、政治史との関係から理解できるようになる。

鎌倉後期における公武両政権の宗教政策を通して、同時期の時代相を考える視座をつちかう。

仏教史料の持つ史料的価値について、学問的に理解できるようになる。

授業計画

- 『感身学正記』の概要、講義の進め方、当番の割り振り、文献探索の方法
- 『感身学正記』を読む（1）（弘安元年条）
- 『感身学正記』を読む（2）（弘安2年条の前期）
- 『感身学正記』を読む（3）（弘安2年条の中期）
- 『感身学正記』を読む（4）（弘安2年条の後期）
- 『感身学正記』を読む（5）（弘安3年条）
- 『感身学正記』を読む（6）（弘安4年条の前期）
- 『感身学正記』を読む（7）（弘安4年条の中期）
- 『感身学正記』を読む（8）（弘安4年条の後期）
- 『感身学正記』を読む（9）（弘安5年条の前半）
- 『感身学正記』を読む（10）（弘安5年条の後半）
- 『感身学正記』を読む（11）（弘安6年条の前半）
- 『感身学正記』を読む（12）（弘安6年条の後半）
- 高野山における調査
- 高野山における調査

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、参考書・関係論文を参照し、少しでも充実した資料を作成できるように努力すること（120分）

報告中に教員から受けたコメントや、討論の要点をノートに整理すること（60分）

テキスト

①『感身学正記』本文のプリント

※第1回の講義で配布する。

②受講生が作成する報告資料

※成績評価の対象となるので、綿密な準備に基づいて用意すること。

③細川涼一『感身学正記』第2巻（平凡社東洋文庫、2020年）

参考書・参考資料等

①和島芳男『叡尊・忍性』（吉川弘文館、1959年）

②長谷川誠注解・訳『興正菩薩御教誡聴聞集・金剛仏子叡尊感身学正記』全4冊（西大寺、1990年）

③奈良国立博物館編『興正菩薩叡尊』（奈良国立博物館、2001年）

④松尾剛次編『持戒の聖者 叡尊・忍性』（吉川弘文館、2004年）

学生に対する評価

レポート（50%）、講義中での報告（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）『感身学正記』に関する基礎的事項を理解している。

（B）『感身学正記』の史料的価値について、講義内容を踏まえて説明できる。

（A）『感身学正記』と叡尊について、仏教史・政治史の双方の視角から説明することができる。

（S）『感身学正記』および叡尊について、独自の調査に基づいて独創的な指摘を行なうことができる。

課題に対するフィードバックの方法

演習において学生が作成した資料の内容については、講義中もしくは講義後にアドバイスを行なう。

その他

本演習の水準は非常に高く、受講生全員に報告義務を課すので、くれぐれも生半可な態度で受講しないこと。参考書や講義で紹介する論著を読んで資料を作成すること。

受講者は、企画科目の「古文書解読」などを履修していなければ、内容の理解や資料作成がおぼつかないので、同科目を必ず履修しておくこと。

なお、本演習では、高野山において、古文書・古典籍の調査を、2回ほど実施する予定である（土曜日もしくは日曜日を予定。この日程は受講生と相談した上で決定する）。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）